

令和元年7月11日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直 通：257-6972
--

病害虫発生予察注意報第1号について

今後多発生が予想される水稻の斑点米カメムシ類の発生時期や発生量、防除上の注意事項について掲載します。

1 注意報の内容

病 害 虫 名：斑点米カメムシ類

(アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、
クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類など)

対 象 地 域：県内全域

水田侵入時期：7月中旬以降

発 生 量：多

2 注意報発表の根拠

- 1) 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は、すくい取り調査による成虫数が10.1頭で平年の1.4倍(平年値：7.0頭)多い。
- 2) 特に、飛翔性カメムシ類は9.8頭で平年の1.5倍(平年値：6.5頭)多い。
- 3) 3か月の気象予報(令和元年6月25日付、新潟地方気象台発表)によると、8月は平年と同様に晴れの日が多いと予想され、今後、斑点米カメムシ類の増殖・活動が活発になると推測される。

3 防除上の注意事項

- 1) 7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と、14～17日後の2回の防除を徹底する。
- 2) 8月以降に出穂する稲は、出穂7～10日後の防除を徹底する。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

【参考資料】

はんでんまい
カメムシ類による斑点米について

1 斑点米とは

カメムシ類が稲のモミを吸汁することにより米粒に吸い跡（吸汁痕）が残り、斑点米と呼ばれる被害が発生します。

斑点米が米粒中に0.1%を超えて混入すると検査等級が2等以下に格付けされ、生産者の収入が減少します。



斑点米

2 斑点米カメムシ類の生態について

カメムシ類は植物の種子を吸汁しており、雑草地や水田等を移動しています。

7月上旬頃までは、主に雑草地に生息して数を増やし、その後水田にも侵入して斑点米を発生させます。

斑点米カメムシ類は、歩いて水田に侵入する「歩行性カメムシ類」と、稲の穂が出ると飛んで水田に侵入する「飛翔性カメムシ類」に分けられます。



トゲシラホシカメムシ
(歩行性カメムシ類)



アカスジカスミカメ
(飛翔性カメムシ類)

<歩行性カメムシ類>

トゲシラホシカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ等

<飛翔性カメムシ類>

アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等

3 被害防止対策

7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回の薬剤防除を徹底しましょう。

8月以降に出穂する稲は、出穂7～10日後の薬剤防除を徹底しましょう。